

15名が感謝の気持ちを伝える

## 「山村教育留学生14期生」送別式

2月28日、全国から只見高校へ進学した「只見町山村教育留学生」第14期生15名の送別式が只見振興センターで行われ、保護者や教育関係者などが出席しました。

送別式では、留学生一人ひとりが「将来は看護師になりたい」、「システムエンジニアを目指したい」など将来の目標などを発表し、卒業生代表の中山楓さんが「只見で過ごした3年間に感謝し、それぞれの目標に向かって頑張っていきます」と感謝の言葉を述べました。



▲3年間只見町で学んだ留学生15名の皆さん

児童が町の未来を考え取り組みを提案!

## 朝日小学校で「総合学習成果発表会」



▲児童の考えを提案した発表会

▼町のPRのために児童が制作したポスター



3月2日、朝日小学校で「町の過去や現在を知り、未来を考える」をテーマにした「総合学習成果発表会」が行われ、学校関係者などが参加しました。この発表会は、児童自らが地域の課題を見出し、自分たちで考えた町の未来を提案したもので、6年生9名が発表しました。

発表では、町の自然を守る取り組みについて提案した「只見ユネスコエコパークプロジェクト」や観光客を増やす取り組みについて提案した「只見町を観光名所に」など全4項目が発表され、町の未来について提案しました。

海洋教育から学んだ「町の将来」を発表

## 只見小学校が「学習発表会」を開催

3月14日、只見小学校6年生10名の「学習発表会」が只見振興センターで行われ、地域住民や関係者など約50名が参加しました。これは、2月4日に東京大学で開催された「第5回全国海洋教育サミット」において、只見小6年生が海洋教育から学んだ「町の将来」について発表しており、今回地域の方々にその成果を発表したものです。発表会では、「国道289号八十里越の開通による海とのつながり」と「海と町の自然とのつながり」について2班に分かれ発表し、「交通の発展により外との交流のチャンスが増える」ことや「節水など家庭内でエコに取り組む『家(うち)エコ』」などを提案しました。



▲地域住民の前で堂々と発表した6年生10名

## 働くことの意味を学ぶ

### 只見中学校で「職業講演会」開催

3月20日、働くことの意味を学ぶ「職業講演会」が只見中学校で行われ、1・2年生と学校関係者が参加しました。講師に只見町在住のハンドメイド作家・Uggoly'sの新妻沙織さんを迎え、「出会いとチャレンジ」と題し、オーダー制によるハンドメイド作家を目指したきっかけなどについて講演されました。新妻さんが学生時代に感じた「人に合わせることより自己主張できる自分」の大切さや、就職して上司から学んだ「お客様に喜んでもらうことの大事さ」などを話され、「目の前のことに一生懸命取り組めば興味がわいて『楽しさ』にも気づけるはず」と生徒たちにチャレンジすることの重要性を伝えていました。



▲講演会後に行われたハンドメイド教室で説明する新妻さん

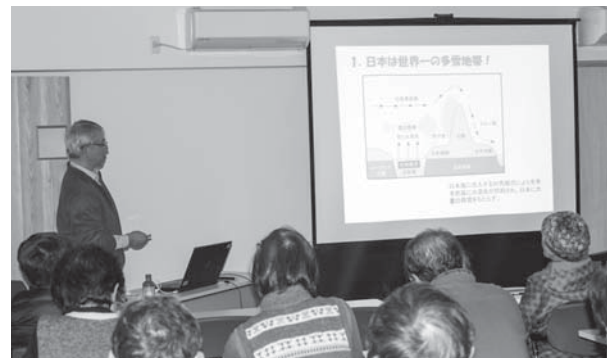
## 只見町ブナセンター

### 只見ユネスコエコパーク特別セミナー

#### 「多雪環境のもとで生きる樹木の苦闘と強かさ」

3月4日、只見町ブナセンターが主催する「只見ユネスコエコパーク特別セミナー」が只見振興センターで開かれ、28名が参加しました。セミナーでは雪森研究所(富山市)の杉田久志氏を講師に迎え、「多雪環境と樹木の関係」について講演されました。杉田氏は、日本が世界でも有数の多雪地帯であることや雪が樹木の生育に与える影響、約40年前に浅草岳で行った積雪と植生の関係の研究などについて解説され、参加者は多雪環境に生育する樹木の生態などについて知識を深めていました。

したた



▲多雪環境と樹木の関係について学んだセミナー



▲ブナ林を観察する参加者

## 自然観察会

### 「冬のブナ林と動物たち」

3月18日、冬のブナ林で動植物を観察する自然観察会が「ただみ観察の森・下福井のブナ水源林」で開催されました。観察会では、下福井集落によって水林(みずばやし)として保護されてきたブナ天然林の特徴についての解説やブナの混合芽(葉と花の芽が一緒に入った芽)の観察、ブナの開葉時期についてブナセンター職員が説明しました。また、小枝の先のニホンノウサギの食痕や雪の下の林床植物の越冬の様子などを観察し、参加者は只見町の積雪期の自然や動植物について学びました。

地域住民などの1年間の成果を発表！

## 各振興センターで「地域の発表会」開催

文芸作品などの展示や体験コーナーなどを設けた「地域の発表会」が3地区の振興センターでそれぞれ開催され、地域住民などが参加しました。この発表会は、地域住民や各振興センターが1年間活動してきた講座などの集大成として開催されているもので、会場内には保育所児童から大人まで様々な年代の作品が並びました。当日はどの会場も多くの来場者で賑わい、地域の魅力が発信され、住民相互の交流が深められました。



▲(3月4日開催/朝日のいいもの集めちゃった市)  
多くの人で賑わった餅つきセレモニー



▲(3月11日開催/只見振興センターまつり)  
昔ばなしを披露する只見町昔ばなしの会の皆さん



▲(3月11日開催/明和小で開催した明和公民館まつり)  
小林早乙女踊りを披露する明和小の皆さん

雪上の亀岡ビーチバレーコートで熱戦が繰り広げられる

## 「TADAMIスノースポーツフェスティバル2018」開催

3月3～4日、NPO法人ただみコミュニティクラブが主催する「TADAMIスノースポーツフェスティバル2018」が亀岡ビーチバレーコート特設会場で開催され、雪上バレーボール競技や雪上フットサル競技などが行われました。町内外から約300名が参加した同大会では、バレーボール元全日本代表の井上謙選手、ビーチバレー日本代表の田中姿子選手、サッカー元日本代表の名良橋晃選手、元なでしこジャパンの海堀あゆみ選手の4名が特別ゲストとして参加し、大会を盛り上げました。



▲井上選手や田中選手などのほか福島テレビ取材班も加わった雪上バレーボール競技



▲名良橋選手や海堀選手も参加し白熱した雪上フットサル競技キッズ部門。明和小Aチームが優勝を飾りました。

## ロボットを自由に制御して創造力を育む 「ロボラボ教室」開催！

3月18日、只見振興センター主催の「ロボラボ教室」が同センターで開かれ、小学生11名が参加しました。これは、パソコンからロボットに指令を送り動かすといった体験教室で、講師に南会津ICT活用推進研究会の方々を迎え、ロボットの進行方向や停止位置などをプログラミングしながら様々なコースを走らせました。児童たちは、失敗から成功に結び付けるエンジニアの世界を体験しました。



▲児童たちから「楽しかった。またやってみたい」などの感想が聞かれたロボラボ教室

## 人材育成第9期生 雪あそびイベントを開催！

3月17日、「雪上ドッチボール&ボホコギゲスゾリレース」が青少年旅行村で開かれ、小学生や大学生など約20名が参加しました。これは、アウトドアプランナーを目指す人材育成第9期生がイベントの企画・運営などを学ぶために主催したもので、カンジキを履いて行う「雪上ドッチボール」とソリやごみ袋など4種類の道具を使って速さを競う「ゲスゾリレース」を行いました。参加者からは楽しかったなどの声が聞かれました。



▲カンジキを履いて雪上ドッチボールを楽しむ参加者の皆さん

## ブナりん健康ポイント制度 祝20ポイント達成で健康グッズ贈呈

3月29日、保健福祉課が推進する介護予防事業「ブナりん健康ポイント制度」の健康グッズ贈呈式が布沢集会施設で行われ、20ポイントに達した9名が出席しました。この制度は65歳以上の方を対象に、各地で開催するサロンや同課主催の教室などに参加すると1ポイントが付与され、点数に応じて健康グッズや商品券などと交換できる制度です。ポイントに達した方は、同課までお問い合わせください。



▲ブナりん健康ポイント制度を利用する参加者の皆さん

## 介護予防や骨折予防を学ぶ 「転倒・骨折予防講演会」開催

3月30日、「転倒・骨折予防講演会」が季の郷湯ら里で行われ、約80名が参加しました。講師に県立医科大学の大谷晃司教授を迎え、介護予防や転倒・骨折予防などについて講演されました。講演では、転倒・骨折予防には日々の運動習慣が大切で、特に複数の運動を組み合わせることで効果が得られると話し、腰痛体操や大腿四頭筋訓練など数種類の体操や筋力トレーニングを紹介されました。



▲介護予防や骨折予防などについて講演する大谷教授